

令和7年度 第1回小平市総合教育会議 議事録

1 日 時

令和7年7月18日（金）午前10時00分から午前11時20分まで

2 場 所

小平市役所 6階 大会議室

3 出席者

（構成員）小平市長 小林 洋子

教育委員会

教育長 青木 由美子

教育長職務代理者 三町 章

委員 望月 克浩

委員 吉本 一謙

委員 川辺 美沙

（構成員以外の出席者）

川上企画政策部長、白倉教育部長、寺本教育指導担当部長、足立地域学習担当部長、
細村教育総務課長、後藤施設更新担当課長、事務局職員3名

（傍聴者）0名

4 会議内容

午前10時 開会

（開会宣言）

○小林市長

おはようございます。

定刻になりましたので、ただいまより、令和7年度第1回小平市総合教育会議を開催いたします。進行は、会議の主権者であります私が務めさせていただきます。

教育長及び教育委員の皆様には、日頃より、小平市の教育行政の推進にご尽力いただきまして、改めて感謝申し上げます。

さて、本日の協議に先立ち、「小平市の教育に関する大綱」についてのご報告と、昨年度の総合教育会議の振り返りをいたします。

まず、「小平市の教育に関する大綱」につきまして、ご報告をいたします。参考資料をご覧ください。

現行の「小平市の教育に関する大綱」につきましては、令和5年度第1回小平市総合教育会議の協議において合意をいただき、令和5年2月に策定されました第二次小平市教育振興基本計画に定める「目指す人間像」、そして「基本理念」、「教育の目標」を大綱として策定いたしました。

教育に関する大綱の見直しにつきましては、市長の任期も一つの機会であると捉えてはおりますが、このたびの小平市長選挙にて再選をさせていただき、引き続き市長の職を担わせていただくこととなりました。これに伴いまして、教育行政の継続性を重視いたしまして、現行の「小平市の教育に関する大綱」を継続させていただきたいと思っておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

次に、昨年度の総合教育会議の振り返りをさせていただきます。

昨年度の7月に開催いたしました、第1回総合教育会議では、「不登校の現状と取組について」をテーマに議論を交わしました。この協議を通しまして、児童・生徒一人ひとりに合った適切な支援と居場所づくりの重要性を再確認いたしました。

また、12月に開催いたしました第2回総合教育会議では、「図書館の将来像について」をテーマとしまして、時代に即した新しい図書館の在り方について、教育委員の皆様とともに考える貴重な機会となりました。

昨年度の2回の会議では、教育委員会の皆様のご協力により、実りのある建設的な意見交換ができましたことに、重ねて御礼申し上げます。本日も、皆様から忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

（協議事項）

○小林市長

それでは、本日の協議に入らせていただきます。

本日の協議事項は、「学校施設の複合化を契機とした地域コミュニティの醸成」についてでございます。

小平市第四次長期総合計画では、基本目標横断プロジェクトの一つとして、新たな地域拠点とコミュニティの創出に取り組むことを掲げております。その中で、公共施設マネジメントの観点からは、今後、地域学習やコミュニティ機能を小学校と複合化することにより、小学校を地域の

核とした地域コミュニティの醸成を図ることとしております。

また、小平市公共施設マネジメント推進計画においても、小学校の更新時期を捉えて、地域コミュニティ施設を小学校に複合化する方針を明確にしております。

今現在も、小学校は、コミュニティ・スクールや青少年対策地区委員会の活動の場などとして、既に地域コミュニティとの関わりがございますが、小学校と地域コミュニティ施設の複合化は、小学校を核とした地域づくりをさらに推し進めるものであると認識しております。

ぜひとも、教育委員会の皆様には、複合施設における地域コミュニティの醸成に向けて、ご意見やアイデアなどをお聞かせいただければと存じます。

それでは、まず、事務局から説明をお願いいたします。

○白倉教育部長

それでは、「学校施設の複合化を契機とした地域コミュニティの醸成」について、資料に基づき、教育委員会の取組等について、ご説明いたします。

資料の1ページをご覧ください。

はじめに、1の「国・東京都・小平市の学校と地域の連携・協働推進の動向」についてでございますが、文部科学省は、第4期教育振興基本計画の目標9の基本施策の中で、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を掲げております。また、東京都教育委員会は、東京都教育ビジョンの基本的な方針9の主な施策展開の中で、地域学校協働活動の推進を掲げております。

小平市においては、第二次小平市教育振興基本計画の基本的施策9の中で、「「地域とともにある学校づくり」を目指すコミュニティ・スクールと、「学校を核とした地域づくり」を目指す地域学校協働活動等を通じて、学校内外において子どもたちが地域と触れ合い、協力を得ながら生涯を通じて学び成長していくことができるよう努めていきます」としております。

2ページをご覧ください。2の「小平市のコミュニティ・スクール及び小平地域教育サポート・ネット事業」でございますが、(1)の図は、現在、小平市で行われている、コミュニティ・スクールと小平地域教育サポート・ネット事業の仕組みについて、お互いが連携・協働するイメージを表しております。

コミュニティ・スクールとは、学校に対する必要な支援等について、地域住民や保護者等が委員となっている学校運営協議会で協議し、よりよい学校運営につなげていく仕組みとして、教育委員会が学校運営協議会を設置した学校のことで、保護者、地域住民が一定の権限と責任を伴いながら、その意見を学校経営に反映させ、地域とともにある学校づくりを推進していくものでご

ございます。なお、小平市では、学校運営協議会のことを学校経営協議会と称しております。

また、小平地域教育サポート・ネット事業では、保護者や地域の方々による学校への支援にとどまらず、地域と学校双方向の連携・協働を推進し、「個別」の活動から「総合化・ネットワーク化」へと発展させた「学校を核とした地域づくり」を目指す「地域学校協働活動」に取り組んでおります。

3ページをご覧ください。(2)の「コミュニティ・スクールとしての取組例」でございますが、コミュニティ・スクールでは、児童のお店番体験や防災を考える日の実施、また、6年生を対象としたキャリア教育講演会のほか、市内事業者との連携による交通安全教室など、様々な取組を行っております。

4ページをご覧ください。(3)の「小平地域教育サポート・ネット事業の取組例及びその他の取組例」でございますが、小平地域教育サポート・ネット事業では、各学校区の実行委員会で運営されている放課後こども教室や、学校支援ボランティアによる教育活動の支援などを行っております。

そのほか、小学校区ごとに組織された任意団体である青少年対策地区委員会では、青少対まつりや登下校の見守りあいさつ活動などを行うとともに、小平第二小学校内に設置した高齢者交流室では、当該校の児童との交流をするなど、地域との交流を行っております。

5ページをご覧ください。3の「小学校等複合施設について」でございます。

(1)は、「小学校等複合施設の整備に関する基本計画の各種関連計画図」となります。現在、整備を進めている小学校等複合施設の整備に関する基本計画等との関連を記載しており、上位計画となる小平市第四次長期総合計画基本構想や小平市公共施設マネジメント推進計画では、「小学校を地域の核とした地域コミュニティの醸成」を図ることが示されるとともに、第二次小平市教育振興基本計画では、「地域とともにある学校づくり」を目指すコミュニティ・スクールと、「学校を核とした地域づくり」を目指す地域学校協働活動等を通じて、学校内外において子どもたちが地域と触れ合い、協力を得ながら生涯を通じて学び成長していくことができるよう努めていくことが示されております。

これらの上位計画を踏まえ、小平第十一小学校等複合施設の整備に関する基本計画、及び小平第十三小学校等複合施設の整備に関する基本計画では、複合施設の目的を教育活動の充実や教育環境の向上を図るとともに、小学校を地域の核とした地域コミュニティの醸成を図ることとし、整備のコンセプトを「子どもたちが快適に学び、また多世代がつながり高め合う地域の拠点となる学校をめざして」としております。

6ページをご覧ください。(2)の「公共施設マネジメントについて」でございますが、これは、

老朽化した学校や公共施設を更新する際の考え方を示したものでございます。小平市では、①のとおり、2015年、平成27年2月に「小平市公共施設白書」を発行し、将来的な大きな課題として、「人口減少・少子高齢化」「財政バランスの悪化」「施設の老朽化・更新時期の集中」の三つを示しました。

これらの課題に対応するため、②のとおり、2015年、平成27年12月に「小平市公共施設マネジメント基本方針」を策定し、基本理念を「いつまでもわくわくする場をみんなで創ろう」とし、それに基づき、「魅力あるサービスの実現」「持続可能な施設総量」「コストの縮減と平準化」「長く活用できる施設」の四つの方針を定め、推進していくこととしました。

その後、右側になりますが、③のとおり、2017年、平成29年3月には、目標耐用年数を迎える施設の更新等に向けた対応を図るとともに、基本方針に沿った取組の推進に向けた方策を示すことを目的に、小平市公共施設マネジメント推進計画を策定し、その中で推進方針において、配置の考え方と延べ床面積縮減目標の二つを示しました。

一つ目の配置の考え方では、これからの公共施設については、新規整備は基本的に行わず、既存施設の更新は原則複合施設とすることで、2062年度、令和44年度までに施設の延べ床面積を20%以上縮減していくこと、また、満足度の高い魅力あるサービスを実現するために、現在ある機能をできるだけ維持しながら新たな価値を生み出すことが必要であると示されております。

これらの考え方を踏まえ、「小・中学校の統合の検討」の中で、公共施設の延べ床面積の6割を占める小・中学校は、将来的に、中学校1校に対して小学校2校となるように構想し、小学校は19校から14校に、中学校は8校から7校とすることを検討することとしております。

また、「小学校への（仮称）地区交流センターの複合化推進」が示され、今後、2062年度、令和44年度までに順次行っていく小学校の建て替えに合わせて、通学区域内の地域センターや公民館を（仮称）地区交流センターとして、小学校の中に複合化・併設していくことで、子どもから高齢者までが集まり、交流できる地域コミュニティの拠点とすることが示されております。

二つ目の延べ床面積縮減目標では、基本方針で示された施設の延べ床面積を20%以上縮減するとの方針に沿い、人口推計や各施設の目標耐用年数などを踏まえ、各施設の床面積の縮減目標が設定されております。これにより、小学校は将来的な少子化傾向を考慮して5校を縮減し、中学校は将来的な少子化傾向を考慮し1校を縮減することが示されております。

なお、小学校更新時に複合化する（仮称）地区交流センターは、用途地域等を踏まえ600㎡を上限とし、同時に通学区域内の地域コミュニティ施設を廃止することとしております。

7ページは、今後の小学校等複合施設の予定であり、2062年度までに市立小学校14校の

更新の際に複合施設を整備することとしており、図中は複合施設を設置する小学校の位置を示しております。

なお、①から⑤で示した楕円の中の各小学校は、将来統合することを想定している学校で、①から③まで及び⑤は2校から1校に、④の3校については2校に、それぞれ統合後に複合施設として整備することを想定しております。

8ページは、小学校等複合施設のイメージ図となります。図の左側が小学校部分、点線から右側が新たに小学校に複合化される（仮称）地区交流センターです。

小学校には普通教室等と合わせ、地域教育コーディネーターや地域のボランティアの方々の地域学校協働活動室を設けるとともに、地域開放エリアとして児童と地区交流センター利用者などが交流するための地域交流室と、学校教育に支障のない範囲内で開放する家庭科室や音楽室などの地域開放室を設けます。

中段の（5）の「（仮称）地区交流センターの役割」としては3点あり、一つ目は「新たな活動を生み出す地域コミュニティの拠点」として、さらなる教育環境の充実や放課後活動支援、多世代交流、防犯・防災、こどもの見守り、高齢者の活躍の場、様々な担い手が連携した活動など、新たな活動が生まれ、発展していくような地域コミュニティの拠点づくりを行い、地域における共助の力を育むことができる地域コミュニティを目指すこととしております。

二つ目は「様々な人々が活動しやすい施設づくり」として、地域の身近な活動の場として、地域に住む様々な住民が、多様な担い手として円滑に活動できるためのプラットフォームを目指すこととしております。

三つ目は「人々の「地域のために」という想いを大切に、地域貢献や地域還元役に役立つ施設づくり」として、地域住民がお互いに認めあい、支えあい、助けあえる地域コミュニティを育成し、地域愛や地域貢献意識を育む場をつくります。市民が課題解決や自己実現のために主体的に学び、活動し、さらにはそこで得た成果を地域に還元したり、次の世代に伝えたりするなど、地域を共に創っていくことができる場を目指すこととしております。

9ページをご覧ください。4の「小学校等複合施設での地域コミュニティの醸成」についてでございますが、この図は複合化前と複合化後のイメージ図となり、複合化前は小学校と地域の交流は個々に取組を行っていましたが、右の図のように各施設を複合化することで、施設の位置も含め、活動の場が中に入ること、学校と地域の距離がより近いものとなり、小学校と（仮称）地区交流センターのそれぞれの円が重なった箇所とおおり、教育環境の充実や多世代交流、防犯・防災など、様々な取組により地域コミュニティの醸成がさらに図られるものと考えております。

それにより、メリットとして、小学校では複合施設の特性を生かした多角的な教育活動の実施

が可能になることや、専門性のある人材や地域住民との連携による学校運営への支援などが得られること、(仮称)地区交流センターでは多世代交流の充実や小学校と連携することによるイベント活動の活発化などが挙げられ、複合化によりそれぞれの特性を生かすことで、様々な相乗効果が期待されております。

今後の検討にはなりますが、運用面ではこれまでの交流をどのように広げ深化させるか、どのように児童の教育に還元させるか、どのように地域コミュニティの醸成を図るかなど、施設面ではセキュリティの配慮などについて、引き続き各施設の運用状況等を踏まえ、進めていくこととしております。

なお、10ページには現在の公民館・地域センターの取組例を、11ページには他市の複合施設での地域交流事例を参考に添付しております。

説明は以上でございます。

○小林市長

それでは、皆様からご意見を伺ってまいりたいと思います。

三町教育長職務代理者より、お願いいたします。

○三町教育長職務代理者

よろしく申し上げます。

事務局が作られた資料については、大変ご苦労様でした。改めて全体を整理することができ、非常に役に立ったと思っています。

まず、テーマについて、複合化することで、より一層地域コミュニティづくりを進めたいという願いが非常に込められた事務局からの説明だったと思いますし、私もそれを受け止めました。地域コミュニティの拠点、場所がつくられるわけですから、そこで実際に地域コミュニティをどのようにつくっていくかということは、大きなテーマであるというお話であったと思います。その意味において、地域コミュニティの拠点というのは、これまでも公民館においてよく使われている言葉であり、また、学校ではこれまでも地域コミュニティの核という言葉が使われ、公民館の事業や学校のコミュニティ・スクールが実施されていると認識しており、先ほどご説明いただいたとおりであると思っています。

また、以前、教育委員会で情報提供いただいた小川駅西口の複合施設ですが、多世代の多様な活動が重なり合い、コミュニティの創出に資する活動拠点として期待されているという目的を掲げていました。違いとしては、小学校というコミュニティの核と公民館等の地域コミュニティの

拠点を一緒にしようということであり、このことは、非常に期待の大きいものだと思います。

先日、資料にありました志木市立志木小学校を視察しました。学校と公民館、図書館との複合ですが、そこに集まる子どもや大人の関係には、施設の相互使用や共同での避難訓練といった物理的な交流もありました。また、挨拶を交わすというような心の交流もあり、多世代の市民が自然な形で集まって活動しているところは、非常に学びが多かったように感じています。その意味で、拠点としての機能は働いていると感じました。

しかし、地域コミュニティの醸成という点からすると、例えば、「地域学校協働活動について、志木小学校やその地域ではどうだったか」という質問を投げかけたところ、「学校ボランティアの募集などを行っている」という回答でした。拠点として交流のことが意識されているものの、地域社会、つまり、人と人とで構成された非常に大きな地域コミュニティとしての働きは十分とは思えないと私は正直感じました。

つまり、地域コミュニティというのは、同じ地域に住む人たちがお互いに助け合うこと、あるいは、より良い社会、地域をつくっていかうという集まりです。昔で言えば町会や自治会、商店街や青少年対策地区委員会もそうです。防犯・防災、環境美化などのような地域の抱える課題を、住民同士で解決していくという機能が、地域コミュニティには期待されます。

今回の資料でも、8ページの(5)において、(仮称)地区交流センターを拠点とした活動が、地域コミュニティの醸成だとしています。ところがポイントだと思います。つまり、地域コミュニティをつくるためには、お祭りやイベントなどにより交流を促進していくこと、見守りや防災といった安全・安心のための地域づくりを互いに行うこと、等々、それがコミュニティだと思います。また、新たに地域資源を活性化してイベントを行うことも地域コミュニティだと思います。

そのような地域コミュニティが、昔はつくられていたのだと思います。私が住む地域は、自治会がなく、また、隣の自治会は高齢化が進み、新しい人が自治会に入りません。このような形でネットワークが崩れてきていることや、高齢化によって地域コミュニティを支える人が非常に少なくなっていることなど、そのような課題も多いと思っています。

そのような状況において、小平市でこれから地域コミュニティを醸成していくためのポイントとして、全校がコミュニティ・スクール化したことが大きいと思います。全校がコミュニティ・スクールとなったのは、小平市では今年度が初めてです。行政のほうから強く打ち出していくよう私は何回も発言したのですが、学校、地域の情勢を見守ってほしいということで、平成19年頃から始まり、設置について教育委員会の努力義務という法制化が提言された平成27年頃から長く時間がかかりました。これだけかかったので、これを核にして醸成していくのは絶対的な方向だと強く感じています。

小平市のこれからの強みとして、地域コミュニティをつくっていくために特に期待したいのは、資料の9ページの図にあるとおり、複合化によって、それぞれの人材のネットワークを使っていくことです。具体的には、学校運営協議会や地域学校協働活動だと思います。学校支援の活動という発想も大事ではありますが、それを通して地域の人たちがやりがいや生きがい、その地域の人自身が感じる、人と人とのつながりをつくる重要な活動となります。単に学校支援のためのボランティアを集めて、子どもたちの教育や育成を図るという活動ではなく、もっと双方向な形にしていくようなことが必要だと考えます。実際には、かなり取り組まれてきており、先日行われたコミュニティ・スクールの発表を聞いても、かなり進んでいると感じましたが、地域学校協働本部が活動を推進するという考えを、これから一層強く進めていくべきです。また、そこに関わる人々が、コミュニティを醸成するのだという高い思いでなくてもよいですが、単に子どもたちを育てるためのお手伝いをするという発想ではなく、自分たちのネットワークをしっかりと強くしていくぞという意識を持ちながらやっていただけるとありがたいなと思っています。

特に、小平第十一小学校、第十三小学校については、具体的な地域課題というのははっきり出てきているわけです。例えば、小平第十三小学校については、小川西町のエリアが新しく学区に入ることや開発が進んでいくことなどの地域課題について、大きく議論できるのではないかと思います。その意味においても、地域学校協働本部を中心とした地域学校協働活動をしっかりと具体的な方向性を見つけながら進めていってほしいです。そして、小平第十一小学校、第十三小学校の先進例が市内に広がっていくことを期待したいと思っています。いずれにしても、人が大事であり、そこに関わる人たちが意識を持って地域をつくっていくことが大切ではないかと考えています。

○小林市長

ありがとうございました。

三町委員のご意見としては、今あるコミュニティ・スクールを地域にもう少し広げていくようにというお考えでよろしいですか。

○三町教育長職務代理者

基本的に、地域コミュニティを活性化したり醸成を図ったりする手法としては、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動であると考えており、それを今も進めていると思っています。したがって、それらを強力に進めていく一つの方法として、資料9ページの図でありますけれど、人々が一緒にいることがより強い方法であるので、公共施設として複合化することにより、さらにそ

れらを加速させていく方向になると思います。

小平第十三小学校においては、今後、その地域が大きく変わる可能性がある中で、地域をつくっていく方向性を示してくれることが期待できると思います。複合化させながら発展させていくということです。

○小林市長

三町委員から人材は大事であるとおっしゃっていただきましたが、人材は宝であり重要となります。また、意識変革も必要であると思っています。今は、コミュニティ・スクールや地域教育サポート・ネット事業は、基本的に子どもたちのためにということで人が集まり、学校経営に関する助言などの活動を行っています。しかし、それだけにとどまらず、地域全体を考えていきませんかということに少し切り替えていく必要があるのかなと捉えました。そのことについてはいかがでしょうか。

○三町教育長職務代理者

市長がおっしゃったことが、今後の地域学校協働活動においては必要なものであると認識しています。例えば、見守り活動というと、こどもの見守りの印象がありますが、高齢者の見守りにについても地域学校協働本部などで議論していくことが、これからの地域をつくるということではないかと考えています。その意味において、二つのキーワードであるコミュニティ・スクールと地域学校協働活動については、これからの期待をしております。

○小林市長

ありがとうございました。

それでは、続きまして望月委員、よろしく願いいたします。

○望月委員

ありがとうございます。本日はどうぞよろしく願いいたします。

まず、複合化を契機とした地域コミュニティの醸成ということで、学校施設の複合化に関しましては、ハードの共有というよりは、この場所が人と人とのつながりを生み出す仕組みづくりになるということが、非常に大きなポイントになると思っています。特に、小学校や中学校を考えた場合、学年ごとにコミュニティができますが、それが単体で終わってしまっているというのが今までのイメージです。施設を複合化することによって、小学校から中学校へ上がり、さらに大

人になっても、同じ場所で学びや体験を少しずつ、形が変わるにしても経験したり学んだりすることができ、各世代の人々が同じ場所においてコミュニティが出来上がるということが、非常に大事なポイントになるのではないかと思います。これが私の結論となります。

一般的な話にはなりますが、小平市の目指す人間像の実現に向けた計画の基本理念を「学び・体験を通じて お互いに認め合い 励まし合い 共に生きるまち小平」とし、目指す人間像として、「自立」「貢献」「共生」を掲げております。「自立」に関しては、自ら考え、判断し、行動する力を。「貢献」に関しては、地域や社会に愛着を持ち、自分にできることを考える姿勢を持つこと。「共生」は他者を認め合い、良好な関係を築くこと。この三つの小平市の目指す人間像について醸成を図っていくために、学校や学びがあるのだと思います。

複合施設の例として資料にありましたが、志木市の志木小学校の複合施設を、7月11日に実際に視察してきました。そこで聞いてきたお話を、この場で報告させていただきます。

この施設は、平成15年の3月から供用開始のため、かなり前から施設自体は出来上がっております。小学校と公民館と図書館が一体化になっている形で、コンセプトとしては学校の中に地域社会を持つてくる、複合施設自体が一つの街角というテーマとなっています。複合施設として先陣を切った施設ではありますが、実際の成果や経過に関して伺ったところ、音楽室や図書室といった場所にも、地域住民の方が自由に出入りできるとのことでした。また、児童が授業をしている隣に大人のサークル活動を実施する場所があることや、小学校であれば図書室がありますが、実際に使われているのが図書館になり、一般の利用者の方と児童が同じ時間帯に利用する形となっています。結果的に、多様な大人との接点が日常的に存在する状況となっています。

小学校では通常、児童のほかには職員や先生といった大人がいますが、それ以外の大人の方と触れ合う機会はありません。しかし、この施設においては、大人が同じ施設の中でサークル活動をしていますので、地域の方々、つまり大人との交流というのがどんどん生まれる場になると感じました。

小平市においても実施しておりますが、図書館職員による読み聞かせの授業があります。小平市と少し違う点が、図書館職員が高学年の児童に読み聞かせをして、次に、高学年の児童が低学年の児童に読み聞かせをするというような流れができていますということです。このように、大人から子どもたちへという交流が図書館だけでもできています。また、利用する方々も非常に多いので、世代を超えた交流ができています。

複合施設として、同じ施設の中に公民館、学校、図書館がある形になりますと、間をつなぐ協働での作業が出てきます。そのことについても伺ったところ、子どもたちと話し合いながら実施しているということでした。このようなことは、学校施設の複合化がなくてはなかなか難しいと

思います。もちろん課題として、セキュリティの問題や防犯の面、場合によっては防災の観点もあると思いますが、それ以上に、小学校は小学校、中学校は中学校など各世代が切れてしまう形にならずに、長きにわたってコミュニティを醸成することができる場所になるということが、今後、非常に大事なポイントになるのではないのでしょうか。世代間で切ってしまうのはコミュニティの醸成になりませんので、学校施設を複合化することによる一番のポイントであると思います。

「自立」という観点であれば大人との接点ができますし、児童だけでということだけでなく、様々な立場の方との接点ができますので、自ら考えて判断し行動する力を育てることにもなると思います。また、「貢献」という観点では、小学校という枠を超えて、児童だけでなく大人も、世代間を超えた形での「貢献」が可能になってくると思います。また、複合化することによって、「共生」については、お互いを認め合い、良好な関係を築くこともできます。

つまり、施設の複合化により運営の部分でいろいろと考えていただく点は出てくると思いますが、こどもたちの成長の場が広がることや、地域住民の参画意識が高まるポイントになると思います。また、教育の持続可能性という点で、小学校のみで完結するわけではなく、社会人になってからもその施設を当たり前のように使うようになることで、非常に持続可能性も高まるのではないかと思います。その意味において、教育の施設を複合化することによって、地域連携や協働という仕組みが、より強固になっていくのではないかと思います。

複合化の問題点としては、先ほどお伝えしたとおり、セキュリティなどの問題があると思います。しかし、長い時間をかけてコミュニティを醸成していくということであれば、複合化はより良いものとなるのではないかと思います。

小平市においても施設の複合化の推進を図ることによって、高められるものがあるのではないかと思います。

○小林市長

ありがとうございました。

お話しいただいた中で、学校や地域をつなぐ、協働での作業が出てくるということをおっしゃっていたと思いますが、具体的にどのような作業があるか伺っていれば教えてください。

○望月委員

実際に災害が起きたときには連携が必要になるので、防災訓練が挙げられます。そのほか、小学校の屋上にビオトープがあり、野菜を栽培するなど様々な活動があります。小学校のことだけでなく、公民館などの職員が間に入り、具体的な進め方についてお話をされているということ

でした。

○小林市長

ありがとうございます。

冒頭におっしゃっていただいた、学ぶ、体験する、経験する、ということと一緒に空間でやることで、コミュニティがつくられていくということは、まさにそのとおりであると思いました。一緒に過ごす時間はやはり大切であり、一緒に体験する、一緒に経験するということが重要であるということについては、強く同意をいたします。ありがとうございました。

それでは、続きまして吉本委員、よろしくお願ひいたします。

○吉本委員

小林市長にはこのような機会をつくっていただきありがとうございます。事務局の皆さんもありがとうございました。

学校の複合化を契機としたコミュニティの醸成についてですが、現在小平市で進められている学校施設の複合化は、小学校を核とした地域に新たなつながり、そして居場所を生み出すきっかけになると考えています。少子高齢化が進む今こそ、こども、保護者、高齢者、そして地域の方々が、普段から顔を合わせて支え合える仕組みが必要だと思っています。複合化は、そうした地域の居場所やつながりに資する重要な取組だと考えています。

その上で、私は大きく三つの観点から話をさせていただきたいと思います。一つ目は期待すること、二つ目は懸念点や課題、三つ目に今後に向けた提案というところで、大きく三つに分けてお話しさせていただきます。

一つ目の期待されるメリットとしては、私は四つの視点で考えました。

一つ目は、世代を超えた交流の場をつくれることです。学校に地域センターや公民館施設が併設されることで、こどもや高齢者が日常的に出会う機会が生まれ、地域の顔の見える化が育つと思います。先ほど望月委員がおっしゃっていたとおり、志木小学校を視察した際、大人がいることが当たり前で、こどもたちが大きな声で挨拶をし、本当に大人に慣れているなという印象を受けました。

二つ目は、地域の安心拠点としての役割を果たすことができるようになることです。災害時の避難所としてだけでなく、普段から誰もが訪れやすい場所となることで、先ほど三町委員もおっしゃっていましたが、こどもたちだけでなく、高齢者の見守りや孤立防止の効果も期待できると考えています。

三つ目は、学びの場を地域に開く効果があるということです。地域住民の知恵や経験をこどもたちの学びに取り入れやすくなり、地域ぐるみの教育や生涯学習に大人もつながることができるのではないのでしょうか。

四つ目は、スポーツを通じた地域連携の強化ができるのではないかとということです。複合化された施設の中に小学校の体育館や校庭などスポーツの施設が共有されることで、放課後や休日の地域スポーツの活動に利用しやすくなります。このことによって、こどもたちの運動習慣づくりだけでなく、大人や高齢者の健康維持、世代間の交流促進にもつながることができます。

これらが期待されるメリットだと考えました。

大きく分けた二つ目の懸念点と課題についてですが、一番大切なことは、やはりこどもたちの安全の確保です。多世代が集う場だからこそ、動線をしっかり確保することやゾーニング、そして安全な出入管理をしっかりと行わなければならないと考えました。何かあってからでは遅い問題ですので、最も大切にしなければならないことだと思っています。

二つ目は、施設運用の調整です。利用者の目的や年齢層が多種多様になることによって、運用ルールや管理体制に柔軟性と、時には明確さが必要になります。これを設計することが非常に難しいと考えています。

三つ目は、学校らしさ、そして施設らしさをしっかり維持することです。地域に開かれつつも、学校としての静けさや教育空間としての集中できる環境をしっかりと守っていくことは、非常に大切だと思います。例えば、図書館では静かにしなくてはいけないといったルールがあります。志木小学校においては、こどもたちが多少騒がしくても地域の方々の理解があり、「うるさいといった意見は一度もないです」とおっしゃっていました。しかし、図書館は静けさを求められる場所だと思いますので、そのことは守られるべきだと思います。今述べた三つの観点が懸念点と課題だと考えています。

三つ目の今後に向けた提案についてですが、一つ目は、先ほどお話しした安全性です。時間帯、用途による使い分けと動線の明確化をしっかりと設計していただきたいと思っています。昼間は学校中心ですが、放課後や休日は地域利用など、スムーズに使い分けられるようになること。その上で、しっかりと安全面の確保を考えてつくっていただきたいということです。

二つ目は、現在もしっかりコミュニケーションを取っていただいているのですが、設計段階から地域の参画、つまり、住民、保護者、教職員などが話し合える場を設け、使い勝手や居心地の良さが学校目線でも住民目線でも設計され、そして考慮された運用をしていただきたいと思っています。

三つ目は、コミュニティ・スクールを活用した地域との協働です。先ほど事務局から説明して

いただきましたが、キャリア教育の授業や読み聞かせもそうかもしれませんが、地域の方々が地域のコミュニティ・スクールを生かした教育活動に関われる機会を積極的に設けていただきたいということが、今後に向けた提案になります。

最後に、学校施設の複合化は、地域施設の整理・統合だけでなく、距離が近づくことで地域のつながりや居場所を再構築する貴重な機会だと考えています。そこに集まる人たちの思いや日常、関係性が丁寧に組み込まれることで、本当に地域に根ざした場所になると思っています。小平市が今後、子どもも大人も安心して関われるまちへと進んでいくことを心から願っています。

○小林市長

ありがとうございました。

スポーツでの交流というお話もいただきましたが、志木市で具体的なスポーツの交流の事例はありましたでしょうか。

○吉本委員

スポーツでは、視察のときに、公民館でダンスをしている方もいらっしゃいましたが、授業の時間だったため、特にそこでの交流の場を見ることはできませんでした。

○小林市長

分かりました。ありがとうございます。

大人たちがダンスサークルを行っている姿を見せることや、子どもたちがそれを見ること自体も大事なことであると思います。公民館については、子どもたちは遊びに行くこともありますが、大人たちが普段どのような使い方をしているかについては、少なくとも小平市においては、子どもたちは知らない部分があると感じています。子どもたちが、将来大人になったときに、公民館をどう使っていくかというイメージも、複合化することでできるようになるのではないかと思います。

吉本委員もおっしゃっていたように、普段から顔を合わせることで、姿を見せること、そして一緒にいるということが大切なのではないかと改めて思ったところです。ありがとうございました。

それでは、続きまして川辺委員、よろしく願いいたします。

○川辺委員

このような機会をいただきまして、小林市長、事務局の皆様にご挨拶申し上げます。

今回のテーマをもとに、改めて私自身、学校とは、地域コミュニティとは、ということ深く考える機会になりました。先日私も委員の皆様と一緒に、学社融合施設である志木小学校、いろは遊学館、いろは遊学図書館の視察に行っていましたので、そこで見たことや私が感じたこと、そして小平市での複合化を契機に、ぜひ実現してほしいと思ったことを織り交ぜながら、大きく三つに分けてお話をさせていただこうと思います。

一つ目は、世代間交流の場についてです。志木小学校の施設には、他の委員からもお話がありました。興味深いものが様々ありました。中でも私がいいなと感じたのはホールでした。このホールは公民館機能として設置されていますが、私たちが訪問したときには、地域の方々がダンスの教室として利用していました。

月曜日は公民館が休みのためホールが空いており、児童が音楽の発表の場として利用しているということでした。体育館よりは少し狭いですが、ピアノが設置されており、座席が出てきてホールの形になるという点が素晴らしいと感じました。このように、ハード面として相互利用や有効活用できる場所があること、そして利用しやすい施設づくりという点で、世代間交流の実現につながるのではないかと感じました。吉本委員もおっしゃっていましたが、大人も子どもも同じ場所を利用するという、そういう場があることが大切であると思いました。

二つ目は、2015年12月策定の小平市公共施設マネジメント基本方針の基本理念である「いつまでもわくわくする場をみんなで創ろう」があります。私自身がこれを聞いてわくわくしました。私はわくわくする場が大好きなので、具体的に実現できたらいいと思う、みんなにとってわくわくできそうなことを、いくつか挙げたいと思います。

まずは、まちの先生として、地域でスキルをもつ人材にクラブ活動や体験講座などを担当してもらうのはいかがでしょうか。既に仕事をリタイアされた方も多くいらっしゃると思いますし、地域には「実は、私こんなことできるんだよ」といった芸達者な方が多くいらっしゃると思います。それぞれ得意分野を持ったまちの先生にご活躍いただくことで、世代間交流のきっかけにもなりますし、子どもたちにとっては、同年代との関わりだけでは学べないことを学ぶきっかけとなります。そこからさらに派生して言えば、部活動の地域移行などにつなげられる可能性も考えられます。小平市では既にコミュニティ・スクールで様々な方が地域活動に関わっているため、こうした地域人材の発掘も可能だと思います。

三つ目は、イベントの開催です。イベントは人を集める力があると私は思っています。先日の「こだいら特別活動の日」の、児童・生徒たちが中学校区ごとに様々な意見を出し合って、地域に目を向けて、地域のことを考えて、一つの標語を生み出す様子を見て、私は深く感動しました。そのときに、小平の子どもたちであれば、考えたことや思ったことを具現化していく力があるの

ではないかと感じました。そこに子どもたちだけでなく地域の方々の力が加わることで、できることが格段に増えるのではないかと思います。例えば、複合化した施設で児童が育てた野菜や地域の農家さんが育てた野菜などを販売するマルシェを開催したり、学校や公民館で世代を超えた音楽ライブを開いたりすることも考えられます。

また、個人的に強く思っていることですが、小平市には、小平市・東久留米市・清瀬市をエリアとした地域コミュニティラジオがあります。このコミュニティラジオは、今後非常に重要な役割を果たすと考えており、防災の観点からも重要となります。例えば、スマートフォンを持っていない方においては、災害でテレビが見られなくなってもラジオは聞けるかもしれません。そうした場合、ラジオからの防災の情報が非常に大切になると思います。

望月委員もおっしゃっていましたが、志木小学校を訪れた際に私が最も印象に残ったことは、学校の中に地域を持ってくるということでした。複合化した施設がある中で、地域を持ってくることを考えたときに、もちろんその場所に来られる方はよいのですが、例えば、不登校の子どもや高齢者で足を運べない方もいらっしゃいます。今後、少子化によって学校の統廃合が進むことで、地域の区切りが大きくなり、足を運ぶことが困難な方々が増えていきます。そのような方々も、ラジオであれば自宅で聞くことができます。

学校には放送室があります。志木小学校に伺った際も、子どもたちが工夫を凝らして放送していました。子どもたちは給食を食べながらいつも聞いていますが、これをもっと広げ、大人が関わることで、地域に向けて発信することができるのではないかと思います。

例えば、この春、小平駅の駅前商店街で「KODAI RADIO」という取組が始まりました。これは隔月、2か月に1回日曜日に、駅前商店街の中にラジオ局が来て1時間の放送を行うものです。これを見た時に、もしかしたら複合化した施設の中でもできるのではないかと思います。このように様々な情報を地域に発信していくことが、複合施設においてもできるのではないかと思います。

最後に、セキュリティについてみんなで考えていくことです。志木小学校を訪れた際、非常に印象的だったのが、「この施設は人の目とカメラで安全を確保しています」という一文が様々な入口に掲示されていたことです。不特定多数の人が出入りする場所となると不審者が入りやすくなりますが、地域の人々の目はとても大切で、普段から地域に関わっていることで、不審者が入り込みにくい状況はつくることができると思います。しかし、日頃から対策する上で、地域の人々の目だけでは無理なこともあります。志木小学校でも人の目とは言いつつも、防犯カメラも数十台設置していると伺いました。そのようなところでしっかり予算を組んでいただき、複合化を考える上で夢は膨らみますが、何よりも大前提として安全が一番だと考えています。安全には何物も変

えられません。安心・安全な環境の中で、こどもたちを学校に通わせることができ、そして地域の方々も安心して集える場所でなければならないと思っています。

私の一番お伝えしたいことは、地域のつながりを大切にしたコミュニティの醸成と安心・安全の両立という点で、誰もが安心して利用できる地域コミュニティとして、よい場所だと感じられるように、取り組んでいただきたいということです。

○小林市長

ありがとうございました。

不登校のこどものお話もしていただいて、どのようにコミュニティで関わるかなと思ったら、ラジオの話が出るとは思いませんでした。サテライトスタジオという形なのか放送室を活用するのかは分かりませんが、夢ということで広がっていくのかなと思いました。

そして、安全・安心が第一という点については、他の委員もおっしゃっていましたが、これは課題として存在します。しかし、それを理由にコミュニティを醸成しないということではありません。安全・安心を確保した上で、どのようにコミュニティを築き、どのようにそれを広げていくのか、皆様からもアイデアをいただきました。ありがとうございました。

それでは青木教育長、よろしく願いいたします。

○青木教育長

小林市長には、第1回小平市総合教育会議を開催いただきまして、ありがとうございます。

今回は学校施設の複合化と地域コミュニティに焦点を当てて、協議・意見交換を行うことができ、本当にうれしく思っております。私からは、教育委員の皆様からそれぞれの立場でのご意見をいただきましたので、それらをまとめながら自分の考えなどを述べさせていただきます。

本日の総合教育会議を前に、先週、教育委員及び事務局職員含め12名で志木市のいろは遊学館を視察に行っていました。望月委員や川辺委員と重なる部分もあるかと思いますが、お話しさせていただきます。

このいろは遊学館は、志木小学校と公民館・図書館を複合した施設で、竣工から20年を迎えており、学校と社会教育施設の複合施設として地域にも市民にも定着していると感じました。今後の本市の複合施設の設置に向けて参考になる点が多くありました。

こどもたちが日常的に多くの大人と接する機会があり、こどもたちに社会性が育まれていると校長先生も実感を持ってお話しされていました。例えば、我々の訪問に際しても、こどもたちの休み時間を活用して、児童会活動である高学年のジュニア委員会のこどもたちが校内を案内して

くれました。この学校は視察が非常に多いので、こどもたちも案内することに非常に慣れており、とても上手に対応してくれました。

そして、複合施設であることから、通常の学校では当たり前のチャイムや校内放送がありません。これにより、こどもたちは時計を見ながら行動できるようになり、そうしたことも社会性の醸成につながっていて、複合施設の児童への効果は少なくないと感じました。

安全面については、過日の立川市立小学校で起こった不審者侵入事件のこともあって、川辺委員や吉本委員からもありましたように、大変関心の大きい点でありました。いろは遊学館では、望月委員のお話にもあったように、社会教育施設と学校施設の行き来が比較的緩やかで、児童と市民の接点が少なくないと感じました。もちろん、このことは良いことでもあるのですが、一方でセキュリティについても私たちはとても関心があり、防犯カメラの設置や教員が携帯電話を常に携帯するなど、安全対策は常に考えているということでした。また、それに合わせて「こどもたちを地域で守り育てるんだ」という意識に支えられているというお話でした。

施設を案内する平面図は、学校のエリアと社会教育のエリアが2色に分かれていて、非常に分かりやすく表示されていました。緑色が学校教育施設で、オレンジ色が社会教育施設ということで、考慮を重ねた上でこのような配置になったと思うのですが、市民と児童がともに利用できる形態となっていることから、施設の有効利用ができていく状況がよく分かりました。いろは遊学館の休館日には、学校が授業や会議に施設のフロアや部屋を利用できる便利さもあるとのことでした。川辺委員からもお話があったように、このことがこどもたちや職員にとって非常に有効であるということで喜ばれているということでした。そのような相互利用の協定も結ばれており、休館日には学校も社会教育施設を利用できるとのことです。

特徴的な施設の一つとして屋上にビオトープがあり、ボランティアの協力のもと樹木を植えたり作物を栽培したりしており、近隣の園児も利用しているとのことでした。

次に、本市が目指す複合施設について述べさせていただきます。

「小平第十一小学校等複合施設の整備に関する基本設計方針」では、整備コンセプトとして、「子どもたちが快適に学び、また多世代がつながり高め合う 地域の拠点となる学校をめざして」としています。このことから、本市の進めている複合施設は、こどもたちがよりよく学べる学習の場としての目的と、こどもと市民が日常的に、双方にとって効果的に交流する場としての目的があると捉えました。

このコンセプトをもとに、現在、基本設計が進められていますが、個に応じた学び、協働的な学び、探究的な学びなど、これからのこどもたちが生きる時代に求められる学びの場として、複合施設の在り方を実現していく必要があります。また、小平市が目指す「つながり、共に創るま

ち「こだいら」の実現に向けて、科学技術の進歩や社会生活の変化とともに人と人との関わりが減少している時代の中で、これからの複合施設が、人と人をつなぐ拠点として、川辺委員のご意見にもありました、地域の中で子どもたちが育ち、子どもたちとともに市民が豊かさを得られるような場としての複合施設の在り方も実現していく必要があります。

また、災害時には防災拠点ともなりうる施設であり、いざというときに、こうした日常的なつながりが、自助・共助・公助の基盤となっていくと考えます。

そして、その前提となるのは、子どもたちが安心して安全に生活できる場であるということです。新しいスタイルの学習空間が生まれ、また多数の市民が利用できる環境となる中で、様々な場面を想定した安全対策が求められます。

ここで、本市の現在の「小学校を核とした地域コミュニティ」について振り返ってみたいと思います。

本日の資料や市長からの冒頭のお話にもありましたように、地域の人材を活用した体験活動や防災イベント、各小学校区の青少対まつり、放課後子ども教室など、多くの場面で、子どもたちの学びの充実と多世代交流が実現しています。また、本市では、毎年各公民館において「公民館まつり」を開催しており、地域の小・中学校等の児童・生徒の授業や放課後子ども教室の成果作品が展示されていたり、よさこいの演舞や吹奏楽の演奏などが行われたりしています。こうした活動が、これからの複合施設においては身近にあって、日常的なつながりの中で、より有効な活動の成果が期待できると考えます。例えば、先日の「こだいら特別活動の日」で、子どもたちが「まちづくり宣言」を決めて、それをもとに「地域のために何ができるか」ということに今取り組んでいるわけですが、これが複合施設である小学校を核として、身近な関わりの中で話し合っ

て実現できる。まさにそういった構図なのではないかと感じました。

コロナ禍を経て人間関係が希薄になり、今後ますますデジタル化など社会の変化が加速すると思われる。そうした中で、市民にとって身近な存在である小学校が核となって、人と人とが触れ合える場所として有効活用されることで、三町委員のご意見にもありましたように、地域学校協働活動が活発化し地域コミュニティが醸成され、小平市のさらなる発展につながる、そうした複合施設をつくり上げていくことが大切であると思います。そのための視点として、6点ほどにまとめてみました。

「子どもや市民の多様な学びや活動を実現できる場の創造」、「子どもや教職員、施設利用者が活用しやすい動線」、「高齢者や障がい者などにも有効なユニバーサルデザインも視野に入れた使いやすさ」、「学校教育と社会教育の双方にとって活用しやすい配置」、それから「子どもの安全確保」これは出入口や動線、カメラなどの防犯対策などが考えられます。それから、「耐久性や保守

面」です。例えば、10年たっても雨漏りがしないことや浸水しないことなど、様々に考えられると思いますが、そうした施設の持続可能性などの視点をもって、施設を考えていく必要があると思います。

これから先、数年後には学習指導要領が改訂されます。新たな教育の方向性も示されることとなります。また、日に日に科学技術が進歩し、社会や人の生活様式が変わっていく中で、どのような施設が望まれるのか、市民の思いを受け止めながら、活気のある有意義な施設になることを期待したいと思います。

本日は、市長におかれましては、総合教育会議を開催いただき、誠にありがとうございました。この会議を通して市長と教育委員会が協議・意見交換を行うことで、さらなる理解を深め合うことができたのではないかと思います。私自身も改めて「小学校を核とした地域コミュニティ」について考える機会となりました。小平市の教育に関する事業が積極的に推進できますように、今後ともご支援のほど、どうぞよろしく願いいたします。

○小林市長

ありがとうございました。

志木市の子どもたちによる視察対応という、具体的に、本当に大人に慣れているという例も挙げいただき、ありがとうございました。

本日は皆様から貴重なご意見をいただきました。ありがとうございました。

そろそろ終了のお時間となりますので、本日の議論のまとめをさせていただきます。

本日は、「学校施設の複合化を契機とした地域コミュニティの醸成」をテーマに、皆様から多角的で示唆に富むご意見やアイデア、また、具体的な例などもお寄せいただきました。いただいたご見解の多くに、私も深く共感をさせていただいたところでございます。

学校施設の複合化は、現在、小平第十一小学校及び小平第十三小学校において基本設計を進めており、まさに取組の途上にある重要課題でございます。同時に、その他の小学校や地域においても、学校施設の複合化について中長期的な検討が必要となるため、本市にとって、継続的に取り組むべき息の長いテーマでございます。

本日の実りのある議論が、今後の学校施設の複合化の推進における取組の指針となることを望んでおります。

最後に、小平市総合教育会議は、私と教育委員会の皆様との緊密な意思疎通により、地域の教育課題やあるべき姿を共有し、相互に連携して教育行政を推進することを目的としております。

今後、本日の会議を新たな出発点として、皆様とともに、市民の皆様の声を反映した教育行

政の実現に全力を尽くしてまいります。引き続きの皆様のご支援とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

(閉会)

○小林市長

それでは、本日の議題は以上となります。

最後に、事務局から連絡がございます。

○事務局

次回の小平市総合教育会議でございますが、本年12月を予定しております。日時などの詳細につきましては、開催が近づきましたら、改めてご連絡させていただきます。

○小林市長

ありがとうございました。

以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。